



芝小だより

第五月号

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
FAX:03-3456-3071



「レジリエンス」

校長 齋藤幸之介

新年度が始まって三週間が経つとしていいます。子供たちは、新しい生活に少しずつ慣れてきたと見取っていますが、一方で、まだ自分の力の発揮の仕方に戸惑っている姿も見られます。しかし、まだ始まったばかりです。最初が肝心、と考えるあまりに焦る自分を反省し、子供たちに適した方法を模索しながら一歩一歩進んでいくことを目指しています。

さて、先日の保護者会には多数御参会くださり、ありがとうございました。当初並べた椅子をさらに増やしていきながら、お忙しい中お越しいただいたことへの感謝と共に、皆様の期待の大きさを謙虚に受け止めたいと思っております。私も、学校経営計画についてお話をさせていただきましたが、その際に触れていない表現がございました。それは、「レジリエンス」です。これは、二月に本校の教職員の研修会で、本区高輪台小学校元校長であられた井上文敏先生から御教授いただいた言葉です。

「レジリエンス」とは

レジリエンスとは、もともと物理学の用語で、弾力性、快復力という意味だそうです。御存知の方も多いと思いますが、お叱りしながら私にとっては比較的最近出会った言葉であります。これは、東日本大震災の後、第二次安倍内閣が発足してから用いられた表現でもありました。これからやっ

てくるであろう大地震や様々な施設の老朽化等に対応するために「強く、しなやかな」国家づくりが必要であるとされ、その際に「レジリエンス」が用いられています。では、教育における「レジリエンス」とはどういうことなのでしょうかが。

子供たちに必要な「レジリエンス」

奈良県の小学校で教鞭をとられている上島博先生によると、レジリエンスとは「困難な状況から立ち直る心の弾力性」とされます。上島先生と共に研究をされている深谷和子先生は、予期しない出来事が続く中で子供たちは様々な不運に見舞われたときに立ち直っていくられるであろうか、と危惧され、心の強さ、つまりレジリエンスの必要性を述べています。レジリエンスを子供たちの具体的な姿で言えば「元気で、しなやかで、へこたれない子」と表現されています。

深谷先生は、レジリエンスを備えた子供たちを育てるためには、例えば次のようなことが重要であると述べています。

(一) 子供たちの心に「レジリエンス」を育ていくために

(一) 自尊心を確かなものにさせる

「自分にはいい部分がたくさんあるから、自分は価値がある子だ」と思えるようにする。そのために、周囲の人々が肯定的に評価して自分のイメージを明るいものであると思えるようにする。

(二) 子供を支える

人はみな心が弱い、支えられて強くなる、と捉え、例

(三) 責任をもつことを教える

えば心を込めて子供の名前を呼びよにする。あるときには失敗をさせながらしなければならぬことを与え、「それを自分がやらないと、自分も、家族や周囲の人も迷惑をする」ことを味わわせる。

(四) ガマンを教える

具体的には、例えば「待つ」経験をさせる。ガマンすることを通して「キレたりパニックを起したりしない」で平常心を保てるようになる。

(五) 勇気をもたせる

勇気とは、危険そうに思えることをやってみようとする力、困難を克服しようとする力、人に貢献しようとする力である。子供が難しそうな課題にひるんでいたら「勇気を出してやってみよう」と励ます。

深谷先生は、レジリエンスは「育てていくもの、経験によって自分で強くなっていく資質」であるとも言っています。危機を乗り越えた体験による影響も大切です。子供たちは、日々新たなことに挑戦し、ときにその大変さを味わいます。また、友達との関わりがうまくいかずに悩むことも少なくありません。そんなとき、改めてレジリエンスの意味を私共が確認しながら子供たちの心を育てていきたいと思えます。

(参考)

子供たちの「レジリエンス」を育てるレジリエンス

「元気で、しなやかな心」を育てるレジリエンス教材集

いずれも、深谷昌志監修、深谷和子、上島博、子供の行動学研究会・

レジリエンス研究会著(明治図書)